

MicRoad

ORIGINALITY OPEN THE WAY

ATSUGI MICRO Company Newsletter

2024

Autumn/Winter

vol.2

ATSUGI
MICRO CO., LTD.



創業18年にして初 新卒社員入社

厚木ミクロの未来を担う人づくり

今年4月、創業以来初となる新卒社員をわが社に迎えました。

厚木ミクロがこの先10年、20年と発展していくには人材の獲得と育成が必要不可欠です。会社は社員にとって自己実現の舞台であり、企業は社員が成長することによって成長するものであると考えています。

長年培ってきた技術や会社としてのチーム力、ものづくりに対する姿勢を次の世代にもしっかりと伝えていきます。

MicRoad(ミクロード)

厚木ミクロのMicro+道のRoadから名付けました。会社と社員をつなぐ道をイメージしています。一人一人の社員の活躍や当社の目指す未来をみんなで共有したいという思いを込めています。

ミクロちゃん 座談会



厚木ミクロに入社した理由を 教えてください

もともと祖父の日曜大工の手伝いをしたり、ハンドメイドで小物を作るなど、小さい頃からものづくりが好きでした。自分が作ったものを他の人が使って喜んでくれることがうれしくて厚木ミクロを志望しました。

その中でも視力の良さや細かい作業が得意だったこともあり、品質保証部を希望しました。トライ&エラーを繰り返しながら物事を進めるやり方が自分に向いており、物事や自分の欠点を改善するために行動できる強みも活かせると思いました。

また就活中の工場見学会で、品質保証部は女性が多く活躍している部署だと聞いていたのも大きかったです。基盤をキープするために意外と腕の筋肉を使いますが、立ちっぱなしの仕事じゃないのも地味にうれしいポイントだったりします(笑)



仕事はどのように 覚えていきましたか？

厚木ミクロには“ブラザー / シスター制度”という同じ部署の先輩が指導役として教育を行う制度があります。指導役の先輩とOJTのような形で実際に作業をすることで、現場の業務に必要な知識をより実践的に身につけることができます。私は座学や理屈で覚えるよりも、感覚的に覚えるのが得意なタイプなので、この方法が自分にとても合っていると感じました。

その他にも外部のビジネス研修に参加したり、ゴールデンウィークには社内勉強会が開かれるなど研修制度が充実しており、未経験や文系出身者でも安心して仕事を覚えることができます。



仕事のやりがいは何ですか？



自分が検査したものが人の役に立っていることに最もやりがいを感じます。厚木ミクロの技術は私たちの生活の中のさまざまな製品に使われています。厚木ミクロが出展した展示会に先日初めて参加したのですが、実際に検査した製品が世の中の役に立っていて、さまざまな業界から必要とされていることに感動しました。

また営業技術部の人々が「みんなが当事者意識をしっかりと持って検査してくれるから、質の高い製品が作れるし、それを俺たちは自信を持って営業できる。厚木ミクロはすごくよいチームとして機能していると思う」と話していて、会社全体が同じ熱量で同じ場所を目指して進む姿はとても理想的だと思いました。



厚木ミクロの魅力を 教えてください

一番は社員同士の仲がとてもよいことです。前述したように組織としてのチーム力もありますし、何よりアットホームな雰囲気が魅力だと思います。これは入社前から感じていたことですが、面接の担当者たちが丁寧に話を聞いてくれたことが特に印象的でした。そういった話しやすい・相談しやすい環境や、プライベートでも家族ぐるみで遊びに行く人がいたりといった社員同士の仲の良さ、風通しの良さが自慢です。

また厚木ミクロは電子部品の加工会社ですが、オリジナルのブレンドティーを開発しているなどユニークな取り組みも行っています。最初は「なんでハーブティー？」としましたが、この企画を通して社員のコミュニケーション向上や活躍する場を設け、提案力・企画力のスキルアップも目指しているそうです。

私は学生時代にillustratorやPhotoshop、デザインを学んでいたのですが、その経験を活かしハーブティーのラベルの作成を担当しました。実際に自分が作ったものが形になった時はうれしかったですし、自分の得意なことが活かせる環境やユニークな取り組みも厚木ミクロならではの良さだと思います。



最後に就活生へ向けて メッセージをお願いします

就活生みなさんに言えることは、「後悔をしないこと」です。特に「挑戦しない時の後悔」です。私は後悔しないようにいろいろなことに挑戦しています。もし何かに挑戦して後悔したとしても、それは経験に変わるのでみなさんもたくさん挑戦して後悔しないようにしましょう！





2024.10

18期振り返り & 19期に向けて

上田康彦社長

今期は売上高・利益ともに残念ながら計画達成とはいきませんでしたが、設備投資と期首目標の「ひ」とづくりへの投資」は、おおむね理想とした通りのスタートを切ったのではないかと思います。

人づくりは一朝一夕で成し得ることはできません。また1人でできることでもありません。持ちつ持たれつ。時世とみなさんの声をお互いに共有・許容しながら、明るく楽しくやりが



いを持って働ける職場を目指していきましょう。それがひいては厚木ミクロの周知、付加価値ある仕事をとり込むブランディングにもつながると思っています。

来期は、既存事業の拡大や新規事業の立ち上げが始まり、厚木ミクロが大きく成長できる年になります。取引先や仕入れ先、そしてミクログループとの協業を深化させて、これからも共に頑張っていきたいと思います。

2024.06

オリジナルブレンドティー、第3弾

宝石のような水色を楽しむ

オリジナルブレンドティーの第3弾が完成しました。今回は色にもこだわり、見た目、香り、味のバランスの取れたハーブティーに仕上がりました。

ブレンドの監修は前作に引き続き、株式会社両国百香堂・堀田周江氏。新入社員や中途採用の新メンバーも加わり、フレッシュなイメージをもとにブレンドしました。

「新入社員と先輩社員のコミュニケーションの場をつくりたい、入社後の不安解消の場としても活用してほしい」という、上田社長の思いから始まった第3弾。

新入社員のHさんには入社前から厚木ミクロに足を運んでもらい、一緒に制作を進めてきました。味のイメージやキーワードなど、積極的にアイデアを出し、専攻で学んだデザインの知識を活かしてラベルの制作も引き受けてくれました。

今回は、パタフライピーやハイビスカスを使用して鮮やかな水色を表現しています。水色から紫色へと色が変化する様子を見て「アメ



ジストみたいできれい」とHさん。

完成したハーブティーは、6月に東京ビッグサイトで行われた展示会にて、ブース来場者に配布。お客様からは「ハーブティーが苦手だったけど、飲みやすくておいしい」とのお声もいただきました。

作成チームコメント

目に鮮やかな色合いだけでなく、飲み方も楽しめるハーブティーに仕上げました。アイスではペパーミントの清涼感、ホットではステビアの甘みが引き立ちます。はちみつなどのアレンジもおすすめです。

新入社員のアイデアが詰まったフレッシュなブレンドをお楽しみください。

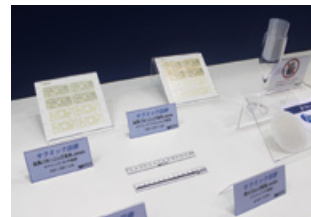
新入社員コメント

今回のパッケージは6月の展示会に配るということで梅雨をイメージし、紫陽花と虹、傘を持っているミクロちゃんを描きました。大学生の時にデザイン関係の学科に入っていたので、そこで学んだことが活かせてよかったです。

2024.06

幅広い加工で技術力をアピール

～ JISSO PROTEC展示会レポート～



6月12日から3日間、東京ビッグサイトで開催された「JISSO PROTEC 2024」に出展しました。当社ブースでは立体配線やフレキシブル回路、有機ELパネルなどを紹介。金属パターンニング基板やスマートリングのイメージサンプルなども展示し、幅広い加工と技術力をアピールしました。

今回出展したJISSO PROTEC(実装プロセステクノロジー展)は、電子部品実装技術の総合展示場です。エレクトロニクス社会に欠かせない電子部品実装に関わる最先端テクノロジーが一堂に会します。「電子機器トータルソリューション展」と称し、JPCA showをはじめとする9つの展示会が同時開催され、3日間の全体来場者数は4万8334人に上りました。

5G対応のスマートフォンや電気自動車など、電子部品実装の市場は目まぐるしい成長を遂げています。当社ではフラットパネル加工はもちろん、かまぼこ型のガラスやフィルムなど、さまざまな材質・形状のものへの加工が可能です。市場の成長と共に進化し、長年培ってきた加工技術で最先端のものづくりに今後も貢献していきます。

のへの加工が可能です。市場の成長と共に進化し、長年培ってきた加工技術で最先端のものづくりに今後も貢献していきます。

展示会担当者コメント

JPCAには6年ぶりの出展となりました。この6年で、各社の出展内容もだいぶ変わってきた印象があります。当社の技術はフラットパネル加工が中心ですが、今回の出展者には同じような展示はあまり見られず、半導体関連が多かったように感じます。

当社ブースへの来場客は初日こそまばらで焦りを感じましたが、2日目や3日目には訪問も増え、実りのある来客も多かったように思います。

問い合わせいただいた内容は、やはり立体構造物への加工など半導体関連が多く、当社も積極的に新しい加工に挑戦していかなければならないと感じました。新しい製品を取り込むことは容易ではありませんが、みんなで知恵を出し合って協力していきたいと思います。

2024.01

新聞スタンド寄贈で地域貢献

子どもが活字に触れる機会を

当社は、地元企業として、地域のみなさま・子どもたちへの貢献に力を入れています。

地域貢献の一環として、近隣の愛甲小学校と東名中学校へ、朝日新聞1年分と専用の新聞スタンドを寄贈しました。活字離れが進む中、地元子ども達に新聞を読み、ニュースに触れる機会を持ってほしいとの思いから、寄贈に至りました。

新聞スタンドには「登下校 なれた道でも 気をつけよう」という交通安全標語とともに、当社公式キャラクターのイラストもプリントされています。

朝日小学生新聞・朝日中高生新聞は、分かりやすいニュース解説や押さえておきたい用語、学習マンガなど、ふりがな付きで、子どもたちにも読みやすいニュースが多



く掲載されています。スタンドラックは図書室の真ん中に設置しており、紙媒体を好んでいる子どもたちが昼休みなどに利用しているとのこと。

厚木ミクロは今後も継続して新聞の寄贈を行う予定です。この取り組みはタウンニュース社や新聞之新聞社の各紙面およびネット記事として紹介もされています。



感謝の気持ちを込めて

永年勤続表彰

当社では勤続10年、20年、30年の節目に表彰状と副賞(表彰金や賞品)が授与されます。2007年にマイクロ技術研究所から分社化しましたが、永年勤続表彰は分社前からの勤続年数で表彰しています。今期は勤続10年を迎える方が3名、勤続20年を迎える方が4名でした。

当社の平均勤続年数は14年。異業種や未経験で入社し、一から知識や技術を習得している人がほとんどです。従業員が長く勤めたいと思える会社にするために、福利厚生の実やキャリアアップの支援に力を入れています。最長の方は、なんと勤



続43年の長きにわたって厚木マイクロで活躍されています。

このたび永年勤続を受賞されたみなさん、おめでとうございます。そして従業員みなさん、いつもありがとうございます。厚木マイクロはこれからも従業員を大切に、そして快適で働きがいがある職場づくりを目指していきます。

受賞者コメント

私は前身のマイクロ技術研究所に入社し、今年で勤続20年を迎えました。3交代勤務の夜勤専門や早番遅番など12年間製造課に所属し、8年前から現在の生産管理の仕事に携わっています。

入社当時の製造課は独身が多かったため、毎日外にお昼ご飯を食べに行ったり、仕事終わりににはみんなで遊びに出かけたことをよく覚えています。当時の社員旅行はマイクロ技術研究所と合同で宿泊することが多く、

製造のメンバーは夜勤明けに現地集合で参加したこともよい思い出として記憶に残っています。

今後については、30年、40年に

向けて誰一人欠けずに新たなマイクロイズムを育て、長く続いていく会社のお手伝いができればと思います。

暑い夏、“おいしいお弁当”で乗り切る

～厚木マイクロの暑気払い～



社員一丸となり暑い夏を乗り切るため、お盆休み前に社内で暑気払いをしました。

作業が一区切りついた人から続々と会場へ集まり、さまざまな部署の人と交流できるよう、座席はくじ引きで決めました。全員そろったところで、取締役の乾杯から暑気払いがスタートです。

お昼ご飯は本厚木で30年以上続く、「西洋懷石じょ里い」さんの肉料理の

お弁当を用意。おいしいお弁当に舌鼓を打ちつつ、うれしい食後のデザートもありました。

昼食後は、はずれなしで全員に景品が当たる抽選会を開催。栄えある社長賞(金賞)を手にしたのは2024年新卒入社のHさんでした!

上田社長の締めめの挨拶の後は、みんなでしっかりごみを分別し、大盛り上がりの中、暑気払いは幕を閉じました。

2024.01

情報発信で関係性強化ねらう

～若手女子の広報チーム発足～

当社は、2022年にブランディングの一環として「広報チーム」を発足しました。月1～2回のペースでニュースリリースを作成したり、noteの運営や社外報の発行などを通じてステークホルダー(利害関係者)に対して身近な情報を発信しています。

その他にも、かながわ経済新聞合同会社・代表 千葉龍太氏を講師に招き、広報セミナーを毎月開催。「広報とは何か」「なぜ広報が必要か」を学びながら、実際にニュースリリースを作成する実践形式で学んでいます。「自分たちで広報をやっている中小企業は珍しい」と千葉氏は語ります。

「堅いイメージを払しょくしたいと



いう、上田社長の思いから広報活動は始まりました。ニュースリリースの発信や公式キャラクターの制作が功を奏し、今年の新卒採用の合同説明会には昨年の倍以上の学生が来場。工場見学に参加した学生からは「ニュースリリースを読んで応募しました」という声もありました。

本年度は新たに1名が広報チームに加わりパワーアップしています。今後も積極的な情報発信を行っています。

2024.06

厚木マイクロの日常をお届け

～note公式アカウントを開設～



このたび、厚木マイクロ公式noteを開設しました。これまで広報活動の一環として会社のホームページ上にニュースリリースをアップしてきました。ニュースリリースにするほどではないけれども…という、ささいな話題など、当社の日常もお届けしたいと思うようになりました。たどり着いたのがnoteでした。

社名や事業内容から一見難し

そうと思われる厚木マイクロですが、noteを通じて少しでも当社を身近に感じてもらえるよう、魅力をお届けできたらと思います。

noteには社内のイベントの様子や、社員インタビューなどを投稿しています。



ないモノづくり。—厚木マイクロは、「世の中にまだないものをつくる」開発者集団です—

編集後記



1年ぶりのMicRoad、無事に発行することができてまずはホッとしています。兼務での活動なので毎日が目まぐるしいですが、マイクロちゃんアツギちゃんに癒やされながらなんとか頑張っています。そして、今回もかながわ経済新聞様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。社員のみならず皆様もお忙しい中快くご対応いただきありがとうございます。次回も何卒よろしく願いいたします。(担当者N)



今年もMicRoadを発行することができました。最近では、ニュースの見出しの書き方や書き出しを気にしています。また久しぶりに小説など本を読んでみようと思入しました。少しずつでも進化した記事になっていると思うてもらえていたらうれしい限りです。特に今回は厚木マイクロ初めの新卒社員ということでHさんにはたくさんご協力いただきました。ありがとうございました!(担当者M)



MicRoad vol. 2をお読みいただきありがとうございました。私は今年の1月に中途採用で厚木マイクロに入りましたが、転職活動中にMicRoadを読んだことが入社への決め手につながりました。広報担当として今度は社外報を制作する側になり、とても感慨深いです。まだまだ力不足ではございますが、これからも厚木マイクロの魅力をお届けできるように頑張ります。(担当者I)